年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　　2022 年　　4 月　　4 日
● 事　業　名　：　ふくしまのこども食堂組織基盤整備事業
● 資金分配団体　：　一般社団法人　全国食支援活動協力会
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人　寺子屋方丈舎
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
0101.「こども食堂等居場所」を支える企業（ヒト・モノ・カネ等）が集まる	運営者が寄付、助成金、食材、ボランティアの供給を受けることが増えていると感じている	県内こども食堂の半数以上が寄付、助成金、食材、ボランティアの供給が増えたと回答する	2023 年 3 月	2021 年 1 月～12 月に 26.5 トンの食材をのべ 499 団体対して実施できた。2020 年はおよそ 7 トンの配布だったので、ロジハブ拠点整備の効果が出てきている。またコロナ禍の影響か、こども食堂に着目してもらう機会が増え食材以外にも生理用品、消毒衛生品、知育玩具など多種多様な支援の申し出が増えている。	2

0102.地域に「こども食堂等居場所」を運営したいという人（組織・機関等）が増える	県内 90 ヵ所に向けて担い手候補が増える	90 ヵ所	2023 年 3 月	2021 年 7 月の福島県こども政策課の調査が最新で、82 か所となっている。そのうち食事や食材を定期的に提供しているのは 60 か所程度と想定している。ただ昨年 11 月頃から現在まで、新たにこども食堂を始めた方、まもなく始める方と多くお会いしており、今春の調査ではさらに増える見込みである。	2
0103.新型コロナウイルス感染拡大収束後もこども食堂等居場所が安定して活動できるようになる	①コロナ感染拡大で 7 割以上のこども食堂等居場所が活動を自粛している。 ②コロナ流行中の活動について、地域からの理解を得られる苦慮している団体がある。 ③コロナ感染拡大中の活動のため	①８割以上のこども食堂等居場所が新型コロナウイルス感染拡大収束後に無事再開することができている。 ②地域との繋がりを作るきっかけとなり、関係性が改善している好事例がある。 ③企業等からの支援を受け、コロナ渦	2022 年 3 月	2022 年 3 月の正会員団体の活動状況（ｎ＝31） 弁当やフードパントリーに変更して開催　51.6% 通常活動と弁当・フードパントリーを併用　16.1% 通常活動　6.5% 自粛・休止中　9.7% 2021 年 12 月の正会員団体の活動状況（ｎ＝25） 弁当やフードパントリーに変更して開催　36% 通常活動と弁当・フードパントリーを併用　36% 通常活動　20% 自粛・休止中　0% 2021 年 10 月の正会員団体の活動状況（ｎ＝27） 弁当やフードパントリーに変更して開催　40.7% 通常活動と弁当・フードパントリーを併用　14.8% 通常活動　29.6% 自粛・休止中　0% コロナ禍において 9 割以上の団体が活動を継続しているが、オミクロン株の流行により再び弁当配布・フードパントリーが多くなっている。一方で利用者は増加傾向にあり、地域でこれま	2

	の資金や物資を必要としているこども食堂等居場所	中も無事活動ができ、収束後も安定的に活動できる状態がある。		でつながっていなかった困窮世帯やひとり親世帯との関係が新たに生まれている。また、前述の通りフードパントリーを行うための食品・食材寄贈量も増えている。	
0104.こども食堂等居場所が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷凍の多様な食材の寄付を受けられるようになる	生鮮食品を含む冷凍・冷蔵品の寄贈食品・ロス食品の利活用実績として、 ①マッチングの物量 ②こども食堂等居場所への食材提供頻度 ③提供団体数（受け渡す側・受け取る側）の変化	①生鮮品の受け入れ実績が年 5 件程度生まれている ②月 2～3 件の物資配布が行われている ③正会員以外の団体にも配布できている、40 団体程度	2021 年 10 月	① 2021 年 12 月までに 5 件の冷凍冷蔵品を受け入れ、0.1 トンの物資を 44 団体に配布。 ② 2021 年 1 月～12 月に 33 回の配布を実施。月平均 2.75 回 ③ 福島市こども食堂ネットワークを通じて、ふくしまこども食堂には加盟していないこども食堂のべ 30 団体への配布を実施。また 2021 年 11～12 月の立ち上げ講座以降、新加盟の団体が 7 件増え、現在 42 団体となっている。	2

0201.学校が「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる	こども食堂がある地域の学校がそのこども食堂の情報を持っている	県内こども食堂の半数以上が地域の学校と何かしらの連携ができていると回答する	2023 年 3 月	地域の小学校と連携できていると感じているこども食堂はおよそ 5 割。教育委員会を通じて学校内でチラシを配布してくれるところも増えているが、地域差が大きい。こども食堂の少ない地域では連携が進みづらいことが多いので、必要に応じてネットワークからもサポートを行う。	2
0202.学校以外の様々なところが「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれるようになる	市区町村の社協と子育て支援窓口がその地域のこども食堂の情報を持っている	県内こども食堂の半数以上が地域の社協・子育て支援窓口と何かしらの連携ができていると回答する	2023 年 3 月	郡山市、福島市、白河市が比較的こども食堂に対する支援策を実施しているが、それに続くように須賀川市、本宮市、いわき市も今後こども食堂の支援に乗りだす空気が見られる。社協についても行政の姿勢に倣うところが多い。引き続き好事例を伝え、働きかけを継続する。	2
0301.「こども食堂等居場所」が望む社会資源（商店会や児童館，学校，学童，こどもクラブなど）とつながることができる	運営者が社会資源とつながっていると実感している	県内こども食堂の半数以上が地域の社会資源とつながりが増えたと回答する	2023 年 3 月	今年度の研修会テーマを募った際、外部連携強化を希望する団体が最も多く、2022 年 1 ～ 3 月に 3 回の研修会を開催した。こども食堂と外部連携は進んでいると感じている団体が多いが、連携の中身についてはこれからもっと深まりを作りたいという意見が多い。	2

0302.地域住民が「こども食堂等居場所」を理解し，協力的になる	運営者が地域住民からの理解得て、ボランティアが充足している	県内こども食堂の半数以上が、ボランティアの供給が満たされていると回答する	2023 年 3 月	こども食堂の形態が感染症拡大状況により定まっていないために、必要なボランティアの人数、必要とされるスキルが常に変化している。その中でもボランティア不足の声は一定数あがっている。その団体が求めているボランティア像を確認しつつ、フォローをする。また、活動開始から 5 年以上を迎える団体が増えており、代替わりスタッフを求める声も出ている。	2
0401.「こども食堂等居場所」の活動者が十分なスキルを有している（ここでのスキルとは，こどもの話に耳を傾けるや色々な気づきを得られる，など様々）	運営者がこどもとコミュニケーションが取れている	県内こども食堂の半数以上が、こどもたちとの関係性について良好と回答する	2023 年 3 月	多くの団体がフードパントリーと弁当配布に活動を変更しているため、こどもとのコミュニケーションの機会が以前より減少していることを心配している。活動の頻度を増やしたり、手紙の交換等で補完している状況。	2
0402.地域に多様な「こども食堂等居場所」ができる（色々な人が参加できるような）	地域に十分なこどもの居場所が開設されている	90 ヵ所になっている	2023 年 3 月	福島県のこども居場所調査では堅調に増加しているが、コロナ、地震の影響で活動を自粛・中止している団体も出始めると思われる。新規立ち上げ希望者からの問い合わせは昨年から引き続き増加している。	2
0501. 「こども食堂等居場所」が「食育」を理解する	運営者が食育の大切さを感じている	県内こども食堂の半数以上が、食育に関する何らかの	2023 年 3 月	一緒に集まって食育について考えるようなプログラムは難しいが、農水省補助事業を利用して食育のチラシ配布を行ったり、各こども食堂において福島産食材の積極活用の取り組みは多くなされている。	2

		取り組みを行っていると回答する			
0502「こども食堂等居場所」が楽しい食卓を囲める場になれる	運営者と参加者が一緒に食事をとっている	県内こども食堂の半数以上が、こどもたちと一緒に食事をとっていると回答する	2023 年 3 月	感染症対策につき、共食は基本行っていない。	1

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
新型コロナウイルス対応と一進一退の状況ではあるが、コロナ禍におけるこども食堂の役割を各こども食堂は理解し、柔軟に事業を変容させながら、福島県内におけるこども食堂活動の成長を感じる 1 年であった。食材寄贈の需要と供給の増加に伴って当ネットワークにおいても資金分配団体と連携し、食材供給のためのロジハブ拠点整備に力をいれ、供給実績として計測することができた。

定例会議やこども食堂研修会はオンラインを積極活用し、予定通りの開催ができた。会場参加者とオンライン参加者の意見交換など細かな運営上の課題は残っているが、会員のオンラインスキルも向上しつつある。 ふくしまこども食堂ネットワークも開設から 5 年を迎え、本事業を過去 2 年活用することで、こども食堂並びに企業などからの認知が向上していると実感する。特に 2021 年後半からは新加盟団体、立ち上げ希望者からの問い合わせ、企業からの寄付・寄贈の問い合わせが顕著に増加している。事業最終年度に向け福島県内に広がるこども食堂を支えること、またこども食堂のない地域での立ち上げ支援を積極的に実施したい。
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
会議・研修・イベント時のオンライン活用。

② 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） HP: https://peraichi.com/landing_pages/view/gi5qo 2.広報制作物等 食フェスタ南相馬 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 食フェスタ南相馬

④規程類の整備に関する報告

1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☐完了　　☑整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☐全て公開した　☐一部未公開　☑未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

島民報　社会

子ども食堂 需要増

コロナで生活困窮

食材や弁当配布など工夫も

新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、子どもたちに親御さん不在の食事を提供する「子ども食堂」の二～六割が収入減を強いられている。勤務先の休業などに伴う収入減を背景に、ひとり親世帯を中心として利用希望者がコロナ禍前の二倍超に上る食堂もある。だが、感染リスクがあるため、敷居を高くしたくないのが実情だ。各団体は各世帯への食材提供や弁当配布に切り替えるなど、支援が行き渡るよう奮闘に工夫を凝らす。

「お子さんと一緒に」トレーを持ち、厨房に入った。今年一月末に開催した保護者向けの「子ども食堂」。二十人が集まった